

1. 科目名 (単位数)	国際社会理解研究 I (2 単位)	3. 科目番号	EIIE4101
2. 授業担当教員	越野 香子		
4. 授業形態	講義、議論、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	国際教育コース4年次必修科目		
7. 講義概要	本授業では、2 年次に履修した「国際社会理解入門」で紹介された「国境を越えた社会現象」の中で生きる人達の事例を、教育の立場から、教育は誰に対し何を目的に行われるのかをテーマに、理解を深めていきます。グローバル化が進み、社会や人間関係が複雑化する今、「他者を理解する」姿勢はこれまでになく重要となってきました。このように「他者を理解する」立場から、どのような問題が浮上し、どのような解決策があるのかを、読み解く作業を行います。このため、この講義では、国際社会問題についてよりよく理解するため、社会調査法を用いて探求する知識とスキルを身に着けることをも目的としています。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「国境を越えた社会現象」とは何か説明ができる。</li> <li>2. 国際社会問題と教育の在り方について、意見を述べるができる。</li> <li>3. 社会調査について簡単に説明ができる。</li> <li>4. 教育の分野で用いられる調査法について慣れ親しむ。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配布される研究論文の要約、考察、批評をレポートとして提出</li> <li>2. 研究計画書 (研究テーマ、研究目的、調査対象及び調査方法、参考資料を含む) 作成</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】1. 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美 著『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』有斐閣、2017。</p> <p>【参考書】 随時、授業で言及する。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準 以下の点が達成されたかを基準とし、評価される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「国境を越えた社会現象」とは何か説明ができるようになったか。</li> <li>2. 国際社会問題と教育の在り方について、意見を述べるができるようになったか。</li> <li>3. 社会調査について簡単に説明ができるようになったか。</li> <li>4. 教育の分野で用いられる調査法について理解が深められたか。</li> </ol> <p>○評定方法 以下の点を総合して評価する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業への参加意欲・態度 総合点の 20%</li> <li>2 提出課題 (レポート等) 総合点の 50%</li> <li>3 発表 (口頭発表・期末発表) 総合点の 30%</li> </ol> <p>なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得は基本的に認められない。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスを熟読し、講義の学習目標、成績評価等についてよく把握しておくこと。</li> <li>2. iphone, smartphone, 携帯電話, その他通信機能のあるノートパソコンやタブレットの電源は切り、かばんの中にしまうこと。</li> <li>3. 本学規定により、3/4 (4 回) 以上欠席すると単位の修得が認められないので留意しておくこと (遅延については、遅延証明書を当日又は次回講義までに担当教員に提出すること。遅延の累計回数が多い場合、遅延を認めない場合もあるため、注意すること)。</li> <li>4. 成績総合評価の内、授業での積極的参加は比重が大きいので、分からないことは積極的に質問し、ディスカッションにも意欲を持って臨むことを勧める。</li> <li>5. 不正行為への対応等について、本学は、「東京福祉大学・短期大学部 研究活動における不正行為への対応等に関する規程」を平成 26 年 12 月 4 日に制定しています。詳しくは、本学ホームページの大学紹介・研究活動のところを参照してください。文部科学省のガイドラインでは、「学生に対する研究倫理教育」を行うことが要請されているので、皆さんは、大学で自分の学習成果をレポートにしたり発表したりしていくうえでの倫理、つまり、守らなければならない事があります。不正行為としては、1. 捏造(ねつぞう)、2. 改ざん、3. 盗用があります。不正行為については、適宜、処置がなされるので、これらについて十分に注意をして、勉学に臨んでください。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	授業時に通知する		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	国際理解教育の観点から行う研究	事前学習	教科書を購入し、シラバスに目を通し、扱うテーマ内容について把握しておく。
		事後学習	授業の進め方や課題について振り返っておく。
第 2 回	社会学と社会調査 ● 研究目的 ● 研究の社会的意義	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』 pp. 1~6 を読み、大まかな内容を把握しておく。
		事後学習	今日の授業のテーマが次回の授業の内容にどう関連しているか考える。

第3回	論文の考察と批評	事前学習	研究の目的が配布された論文の中でどのように記述されているか確認し、意見交換に備える。
		事後学習	今日の授業のテーマが次回の授業の内容にどう関連しているか考える。
第4回	論文の考察と批評 続き	事前学習	前回の議論を顧み、更に意見交換を行う。
		事後学習	今日の授業のテーマが次回の授業の内容にどう関連しているか考える。
第5回	データとは？ ● 社会学のデータ	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』pp.7～9を読み、内容を把握しておく。
		事後学習	今日の議論の内容を振り返り、次回の授業の内容にどう結びつくのか考える。
第6回	研究方法 ● 量的調査 ● 質的調査	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』pp.10～14を読み、量的・質的調査について内容を把握し、議論に備える。
		事後学習	国際教育理解についての研究で量的・質的調査法がどのように使われているか確認しておく。
第7回	量的・質的調査の特徴	事前学習	配布された論文を読み、量的・質的調査法がどのように用いられているか確認し、意見交換に備える。
		事後学習	調査法と研究目的・意義の関連性について考えをまとめる。
第8回	国際理解教育のための質的調査法 1. フィールドワーク	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』pp.15～95を読み、国際理解のための質的調査法について考えをまとめ、議論に備える。
		事後学習	フィールドワークの役割について整理しておく。
第9回	2. 参与観察	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』pp.95～155を読み、参与観察について考えをまとめ、議論に備える。
		事後学習	参与役割についてその意義・目的について整理しておく。
第10回	3. 生活史（ライフヒストリー）	事前学習	『質的社会調査の方法：他者の合理性の理解社会学』pp.156～240を読み、生活史（ライフヒストリー）について考えをまとめ、議論に備える。
		事後学習	生活史（ライフヒストリー）についてその意義・成り立ちについて整理しておく。
第11回	研究と倫理	事前学習	配布した資料をよく読んで、内容を把握しておく。
		事後学習	なぜ研究倫理は重要なのか、考えを整理しておく。
第12回	研究計画書作成について	事前学習	配布したル量をよく読み、研究計画書作成のプロセスについて把握しておく。
		事後学習	研究作成書に取り掛かる。
第13回	各自選んだ調査に関する研究計画書発表	事前学習	研究計画書発表者は準備をする。
		事後学習	発表者は、クラスメートから出されたコメントを基に、発表スキルや内容について良かった点を確認し、また今後どのように進歩していけるか自分なりに考えをまとめる。
第14回	各自選んだ調査に関する研究計画書発表、研究計画書発表の振り返り	事前学習	研究計画書発表者は準備をする。
		事後学習	発表者は、クラスメートから出されたコメントを基に、発表スキルや内容について良かった点を確認し、また今後どのように進歩していけるか自分なりに考えをまとめる。
第15回	国際理解教育の観点から行う研究についてのまとめ	事前学習	これまでの授業を振り返り、教育を通しての国際理解と研究について意見交換の準備をしておく
		事後学習	これまでの授業を顧み、秋期から始まる研究計画を実行する上で役立つ。